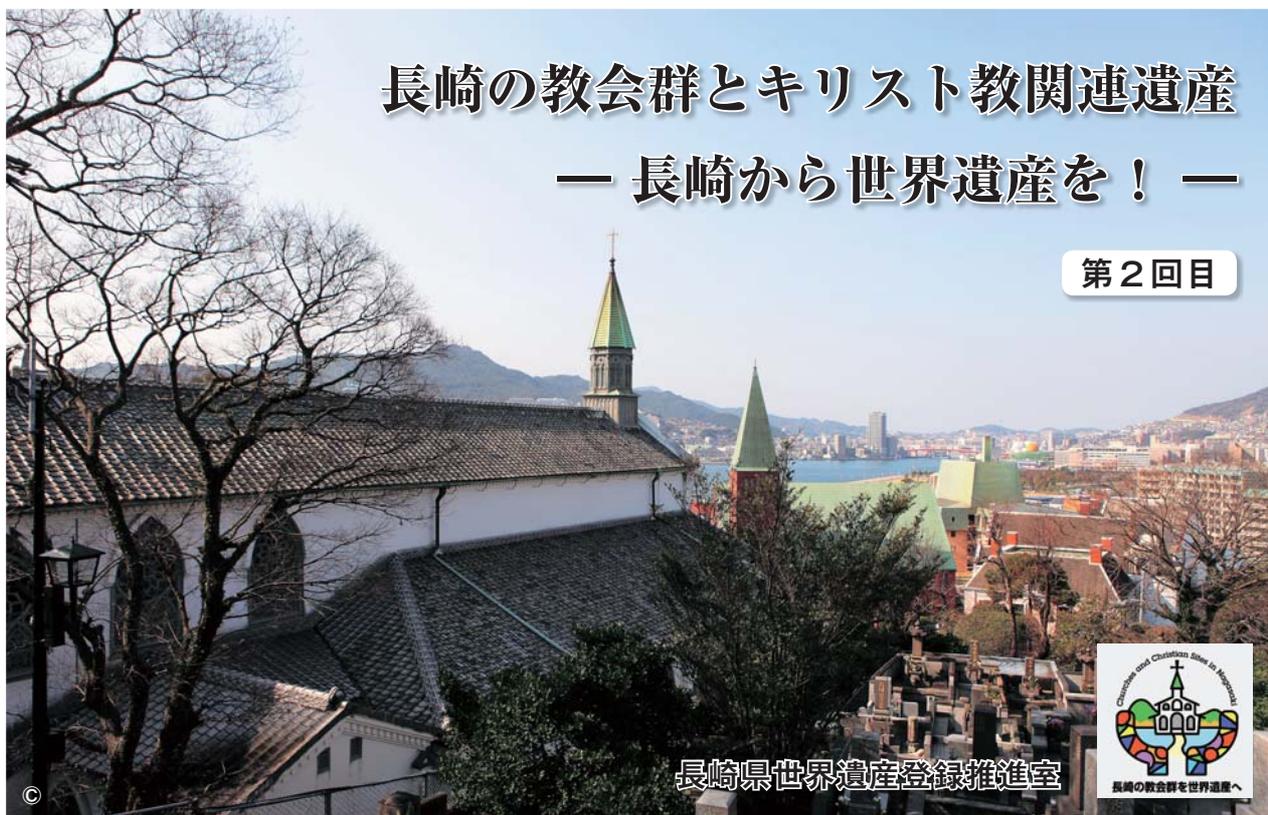


長崎の教会群とキリスト教関連遺産

— 長崎から世界遺産を！ —

第2回目



■はじめに

現在ユネスコの世界遺産暫定一覧表に登録されている「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、450年以上に遡る人間の歴史と感動のドラマを伝える歴史的遺産です。このような歴史的遺産を生み出した長崎におけるキリスト教の歴史について概要をご紹介します。

■長崎におけるキリスト教の歴史

長崎におけるキリスト教の歴史は、決して平坦なものではなく、伝来と繁栄、激しい弾圧と250年もの潜伏、そして奇跡の復活という世界に類を見ない独自の「キリスト教の伝播と浸透のプロセス」を示しています。

■伝来・繁栄

1549年のF・ザビエルによる布教以来、西日本で急速に広がったキリスト教。特に南蛮貿易港として開かれた長崎の新しいまちにはイエズス会の本部が置かれ日本でのキリスト教布教の重要な拠点となります。

多くの教会が建てられ、南蛮貿易の中心地として豊かなキリシタン文化が華開きました。その繁栄ぶりは、当時の記録に「日本の小ローマ」として記されています。また、キリシタン大名の名代として長崎から船出した天正遣欧少年使節は、ローマ教皇への謁見を果たしました。



平戸ザビエル記念教会のザビエル像
(平戸市)



日野江城跡(階段遺構)(南島原市)

■弾圧・潜伏

全国統一を目指す豊臣秀吉は、「伴天連追放令」を発して長崎を直接支配し、1597年に宣教師やキリシタン26人を処刑します。続く徳川幕府が発した「禁教令」により、長崎にあった教会はすべて破壊。仏教への改宗が強制され、従わない信者には厳しい迫害が加えられました。島原・天草一揆を経て、さらに弾圧が徹底されます。

厳しい弾圧と、教会もなく神父もいないなかで、信徒たちは地下組織をつくりあげ、また人里離れた浦々や島々に移り住むなどして、潜伏してキリスト教の信仰を守り続けます。

■復活

1641年の鎖国の完成により、ローマ教皇庁では日本のキリスト教は根絶したと考えられていました。

開国後、再布教のため来日したパリ外国宣教会のプチジャン神父らにより外国人のための教会として大浦天主堂が建てられました。献堂式から一カ月後、浦上の信徒十数名が訪れ、神父に自らの信仰を告白したのは1865年のことでした。いわゆる「信徒発見」です。250年もの長きに渡る潜伏から復活を遂げた信徒。その知らせは宗教史上の奇跡として世界中を巡り、大きな衝撃と感動を与えます。

■信仰の証

1873年、禁教が解かれると、カトリックに復帰した信徒たちによって西洋と日本の建築技術が融合した教会堂が建てられました。それらは、信仰を守ってきた場所などに、信徒自らの手で建てられたもので、苦難の歴史を乗り越えた信仰の証です。

また一方で、カトリックに復帰せず、「かくれキリシタン」の信仰が今も受け継がれている地域があります。その地域には「かくれキリシタン」が信仰のよすがとした山や島などが現在も地域の人々により大切に守られており、人々が弾圧を乗り越え信仰を継承してきたことを示しています。

教会訪問時のマナー

- 祭壇(内陣)は神聖な場所です。絶対に立ち入らないようにしましょう。
- ミサ(礼拝)は神聖な儀式です。写真撮影はやめましょう。
- 教会内での飲食や喫煙は禁止です。
- 教会内には祭礼品や装飾品があります。手を触れないようにしましょう。
- 教会は祈りの場です。静かに拝観しましょう。



原城跡 (南島原市)



かくれキリシタンの重要な聖地「安満岳」の参道 (平戸市)

教会堂

潜伏して信仰を守ってきた場所に建てられた教会堂はそこで信仰が守られて継承されてきたことを示している。



頭ヶ島天主堂 (新上五島町)
日本では珍しい石造りの教会堂



旧野首教会堂 (小値賀町)
教会建築で名高い鉄川与助による最初のレンガ造り教会堂

©：濱本政春氏撮影